

「愛知県航空宇宙産業振興ビジョン」中間とりまとめ案に対する意見の概要と県の考え方

番号	意見の概要	県の考え方
1	航空宇宙産業を徹底的に平和産業として育成すべき。(2件)	本ビジョンは航空機産業の需要が防衛需要中心から民需中心になることを想定して、この地域の航空宇宙産業の今後の方向性を導き出しております。
2	地球全体を一層小さくする(=異国間との空間的距離を短縮し、交流を容易にする)ために、超音速航空機を、次の現実的なターゲットに掲げ、そのための技術力、資金、人的資源等の集積を図る。	10ページではJAXAの取組として超音速航空機の研究開発について記述しておりますが、地域としては49ページに記述しておりますように産学官の連携のもと航空機の継続的・連続的な開発を目指しており、超音速航空機の開発へも繋がるものと考えております。
3	耐熱軽量合金の使用、エネルギー消費など、当面の技術を前提とする諸問題は、科学技術の進展によって、必ずや克服される。また、超音速航空機分野での飛躍こそが、中部地域の真髄でもある。	ご指摘の諸問題は、本県の進めている「知の拠点」計画の研究プロジェクトの中でも検討を進めてまいります。「知の拠点」は次世代ものづくり技術の創造・発信の拠点としての位置付けのもと、現在、重点研究プロジェクトの具体的な検討が行われております。「知の拠点」との連携については56ページに記述しています。
4	宇宙旅行(宇宙ロケットの打ち上げも含めて)の世界基地の一つとして、シンガポールが国策として名乗りを上げている。赤道に近い「利」を活用するもので、この点で日本はハンディを負っている。 逆に、中緯度に位置する日本列島の中でも、愛知県は、リニア高速と結びつく沿海産業地域として絶好の超音速航空機のメッカになるだけでなく、その周辺技術領域からアミューズメント系の異形態にまでわたる、アジアでの一大情報発信地域に成長し得る。	情報発信の重要性についてはご指摘のとおりであり、59ページ～60ページで「(国際航空宇宙展(JA)の当地への誘致、開催により)当地域の航空宇宙産業を世界に向けて情報発信することが可能となる」と記述いたします。
5	県営名古屋空港周りを、風洞試験設備、電波暗室といったような施設を持つ一大研究開発地域にするよう、積極的に県が関与すべき。	52ページ「航空宇宙分野に係る研究開発基盤の強化に向けた取組推進」の〈具体的取組〉にありますように、JAXAの誘致等、県営名古屋空港周辺の研究開発インフラ整備にも県として積極的に取り組んでまいります。

番号	意見の概要	県の考え方
6	<p>岐阜県各務原市には、航空機及び装備品の飛行試験の実績を持つ航空自衛隊飛行開発実験団があり、県営名古屋空港にも航空自衛隊があるとともに、三重県明野には陸上自衛隊の飛行実験隊がある。こういったノウハウを持つ組織が近傍にあることから、防衛省とも積極的に交流を進めていくべき。</p>	<p>まずは民需を中心に地域産学官の交流に取り組んでいきたいと考えております。防衛省との交流は、防衛省の機密上の問題もあり直ちには困難であると考えますが、P - X（次期哨戒機）、C - X（次期輸送機）の民間転用については今後注視してまいりたいと考えています。</p>
7	<p>現在国内では、海外のエアショーのように実機を展示した国際航空宇宙展は開催されていない。小牧基地の航空祭に合わせて展示会を開くのも、商談の場所として有効だと思う。</p>	<p>国際航空宇宙展（J A）の誘致・開催にあたって、実機展示やデモフライト、展示会も検討していきたいと考えております。</p>
8	<p>航空宇宙産業の要素は鉄道についても活かすことができると思う。愛知県は、小牧にJ R東海の研究施設を持ち、豊川に新幹線を製造する日本車輛を持っている。今後は、実績のある自動車、航空機とともに鉄道も視野に入れ、輸送機器の分野で世界をリードする地域になっていけるのではないかな。</p>	<p>技術波及の重要性についてはご指摘のとおりであり、本ビジョンにおいても他産業との相乗効果は重要な項目と位置付けております。ご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
9	<p>航空宇宙産業がこの地域にとって、どのように発展していくのか、発展させるのかという地域づくりの観点からしたグランドデザインが必要ではないか。県営名古屋空港だけでなく、中部国際空港周辺地域に航空宇宙産業の集積を図ることにより、同空港の機能強化が図られるのではないかな。その点の記述がもっとほしい。</p>	<p>59ページ「名古屋空港、中部国際空港の積極的活用」にもありますように、中部国際空港の積極的活用にも取り組んでまいります。</p>

番号	意見の概要	県の考え方
10	計画期間が5年なのはなぜか。アクションプランなら分かるが、ビジョンというなら、もう少し先を見越したものではないか。	昨今の航空宇宙産業を取り巻く環境は急速に変化していることから、本計画は中期計画として計画期間を5年としております。
11	中小企業の国際認証取得の支援の具体的な取組についての記述がもっと欲しい。	国際認証取得支援の具体的な内容については、事業の実施の段階で定めてまいります。
12	研究会や展示・商談会は一過性のものなので、もっと継続的に情報がフォローできるような仕組みを考えること等が必要ではないか。	継続的な情報提供の仕組みづくりの必要性についてはご指摘のとおりであり、研究会についても組織化して継続的に取り組むこととしております。
13	県と産学官でしか対応しないようなイメージがあるが、もっと中小企業を支援している機関・団体の活用も考えてはどうか。	第4章の各取組は、当然、中小企業支援機関も含めた諸機関・団体とも連携しながら実施していくことを想定しております。
14	ビジョンの施策の実施には迅速さが必要である。	産学官の取組については、既に平成20年度から取り組んでいるものもあり、その後の取組についても迅速に取り組んでまいります。
15	病院などの地上設備を含めヘリポートやヘリポートが使える設備までの移動手段として、医療コンテナ用救急車を電気自動車型トレーラーとして開発することを提案する。	ご提案につきましては、今後の取組の参考としてまいります。
16	ヘリポートから現場までを医療コンテナを腹部に抱いて搬送可能なヘリコプターの開発を提案する。	
17	ヘリで対応できない距離を移動する必要がある場合に対応できるような医療コンテナを輸送できるジェット機の開発を提案する。	
18	装備品を日本で製造できるようにするべきである。	本ビジョンでは、航空宇宙産業の振興とは機体のみならず装備品や整備なども含めて総合的に推進していくことと考えております。